

研究開発（株式会社富士通研究所）

■ 研究方針

富士通研究所は、富士通が掲げる「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていること」というパーパスの実現に不可欠な最先端テクノロジーを生み出す役割を担っており、富士通から受けた研究開発投資に対して成果を還元しています。

富士通研究所は、世界4拠点、日本、米国（FUJITSU Laboratories of America Inc）、中国（富士通研究開発中心有限公司）、欧州（FUJITSU Laboratories of Europe Ltd.）に研究拠点をもちマルチナショナルな研究チームで活動しています。

また、量子コンピューティングやAIの分野において著名なカナダのトロント大や数理科学分野で有数の研究機関であるフランスのINRIAなど世界トップレベルの大学や研究組織、ブロックチェーン技術推進コミュニティであるHyperledgerなどのOSSコミュニティとも連携しています。

富士通研究所は、世界10カ国において、海外46、国内114の共同研究を大学や研究機関と進め、世界に冠たるテクノロジーの開発を目指しています。



■ 研究内容

パーパス実現のカギは「信頼（Trust）」であり、デジタルテクノロジーによってあらゆるものがつながる世界においては、これまでも大切にしてきたサービス・製品が正しく動作するという意味での信頼性「Reliability」だけでなく、より広範な信頼「Trust」が求められます。

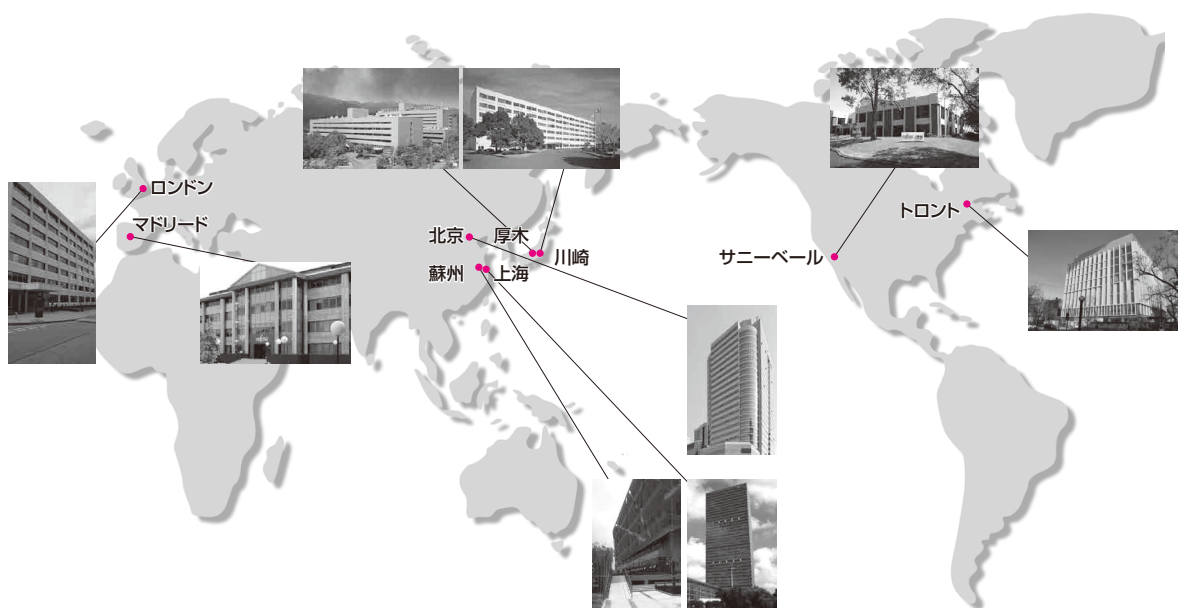
富士通研究所は、信頼を確保する手段が今後ますますサイバー空間にシフトし、デジタルテクノロジーがあらゆる局面における信頼の担い手になっていくと考えています。このようなパラダイムシフトを「Digital Trust」と定義し、その実現のための技術開発に注力しています。



デジタルアニーラ・ユニット	デジタルアニーラを材料・創薬、物流、製造、金融分野等の顧客に広く適用し、顧客とともに価値創造・新たなグローバル市場を開拓することを目的にした研究・実証の推進、エコシステム構築を行う。
デジタル革新コア・ユニット	実績ある先端技術の集約・汎用化を進め、診断予測、行動分析、データアナリティクス、認証・決済、5Gなどのソリューションコアを幅広い業種・業務に導入しやすい形で提供し、提案型ビジネスの拡大を図る。
スーパーミドルウェア・ユニット	データ活用ビジネスが拡大していく時代の中で、データ活用によって得られる価値を最大化するために必要な差別化技術の研究開発を行う。
サービスビジネス開発運用・ユニット	システムを開発し迅速に改良・進化させることに加えて、システム全体を安定稼働させるために必要な開発技術および運用技術を提供する。
プラットフォーム革新プロジェクト	先端技術を活かした顧客価値を創造するために、AI 高速化やシステムプラットフォーム技術などを統合し、ソリューションの差異化となるインフラを提供する。
Gプロジェクト	非装着型の 3D センシング技術を核に、体操競技での選手の動き・スキルをデジタルデータ化し、審判支援・トレーニング活用・放送向けコンテンツ等のスポーツビジネス創出を目指す。
ICTシステム研究所	5G 時代の爆発的なデータ量増大とクラウド化の進展を背景に、これまで解くことが不可能だった課題を解決する新たなアーキテクチャおよび ICT システムに関する技術の研究開発を行う。
ソフトウェア研究所	顧客の本業のデジタル化・共創を支えるシステムの実現に向け、ビジネスの環境変化に迅速に対応できるデジタルサービス技術、システムの開発・運用技術およびソフトウェアに関わる技術の研究開発を行う。
人工知能研究所	DX による社会課題解決・価値創出を牽引する AI の実現を目指し、機械学習等の AI コア技術、防災や医療分野等を革新するモデル融合 AI、説明可能性や倫理等の信頼される AI の研究開発を行う。
セキュリティ研究所	つながる世界や Society5.0 のデジタルトラストを「セキュリティ・バイ・デザイン」で支える、人・データ・システムのセキュリティ技術の研究開発を推進する。
デバイス&マテリアル研究センター	グローバルに認知された材料・デバイス技術を核に、安心安全および持続可能社会の実現に向けた研究開発を推進する。

研究拠点

各海外拠点では、現地の優秀な技術者とともに研究開発や技術動向探索、新ビジネス開拓を進めています。また、各地域の大学、研究機関との密接な協力関係のもとに、市場にも配慮した技術の研究を行っています。



研究開発拠点